

R3 授業改善プラン（算数）

学 年	・課題（児童の実態）	○具体的な改善プラン
1 年	<ul style="list-style-type: none"> 数の概念は概ね定着しているが、数の構成の定着はまだ確実ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○たし算やひき算の計算への繋がりを意識し、反復練習をして定着させるよう指導する。
2 年	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り上がり、繰り下がりの筆算の計算が苦手な児童が多い。 ・文章問題からの立式が正しくできない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一つ一つ計算の手順を確認させながら、個別に指導をする。授業の始めに、計算問題を復習する時間を取る。 ○文章問題に多く取り組ませる。必要なところに線を引かせ、キーワードを基に正しく立式できるよう指導する。
3 年	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的なたし算やひき算の筆算のやり方は身に付いているが、計算の手順を疎かにして計算ミスをする児童がいる。 ・他の人に分かりやすく、ノートに自分の考えを書くのが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○計算問題に取り組む時間を取り、順を追って、丁寧に計算させる習慣を身に付けさせる。 ○書き方の例を示し（図、式、言葉など）、自分の考えを表現する経験を積み重ねられるように指導する。
4 年	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の作図は丁寧だが、既習事項が積み重なっていない児童が多い。 ・問題に対して試行錯誤しながら粘り強く取り組むことが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の始めに、前時や本時に関係する内容の既習事項を振り返る時間を設け、本時の学習内容に見通しをもちやすくする。 ○「分かった」「できた」という成功体験を積み重ねていけるように、問題提示の方法を工夫したり、児童がじっくりと考える自力解決の時間を確保したりする。
5 年	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項（特に除法の計算）の定着が不十分な児童が多い。 ・自分の考えをもっているものの、全体での発表に対して苦手意識をもっている児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○計算問題に取り組む時間をとり、繰り返し練習させる。また、児童の実態に応じて、問題数や数値を変えて取り組ませる。 ○全体で共有する前に、ペアなどで自分の考えを伝え合う時間をとることで、自信をもって全体の前で発表できるようにしていく。
6 年	<ul style="list-style-type: none"> ・計算技能に関して、児童の実態に大きな差がある。 ・数量の関係に着目して決まりを見付け、それを使って発展的に考えることが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎時間ごとの適用問題として、計算問題に取り組ませる。児童の実態に応じて、問題数や数値を変えて取り組ませる。 ○具体的な生活場面を問題に設定し、数と数の関係の決まりを見付けたり、その式を使って発展的な問題を解いたりしていく学習を繰り返していく。また、解いた問題を説明する学習も取り入れ、習熟を図る。